

令和四年度 松阪看護専門学校前期入学試験問題 国語

(問題)は三枚です。解答は、別紙の解答用紙に記入してください。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

新型コロナウイルスによる感染者の急増で、再び各地で緊急事態宣言が発令され、3密を避ける制約が強化されている。対面のコミュニケーションが禁じられて、人と会えない不満がたまりつつある。一方、テレワークやオンラインの会議が①普及して、メールやSNSの情報通信技術を用いれば、**p** コミュニケーションがとりやすくなっているという意見もある。ただ、フェイクニュースやヘイトスピーチ、**a** フウヒヨウ 被害など、言葉でだまされ傷つくことが増えると、言葉で世界を作ってきたはずの人間が、逆に言葉に支配されて苦しんでいるような気がしてくる。

1 コミュニケーションとは何だろうか。私たちは何を伝え合っているのだろうか。長年、野生のゴリラと付き合ってたことは、心を読むのに言葉は要らないということだ。ゴリラは人間より体が大きく、強大な力を持っている。長く鋭い犬歯でかまれれば命を失う危険がある。実際、私は2頭のメスに襲われ大けがをした。だから、気持ちを読み違えれば大変なことになると自覚している。

でも仲良くなれば、ゴリラは心の許せる友人となる。声を出してあいさつをすれば応えてくれるし、目を見ればいたずら心を起こしているとわかる。慣れれば、後ろ姿を見ただけで気持ちが伝わってくる。言葉が②介在しなくても、ゴリラと気持ちを伝え合うことは可能なのだ。人間の祖先も、言葉を話すまでは、**q** 声やしぐさを組み合わせた態度で気持ちを伝え合っていたはずだ。

2 今でも気持ちを伝えるのに、意味のある言葉は要らない。「おはよう」「元気？」などと中身の無い言葉を交わすだけで十分だ。声の**b** ヨクヨウ や表情、態度で相手の気分や状態がわかるし、自分をどう感じているか伝わってくる。必要なのは言葉の持つ意味ではなく、声や身体の動きで作られる全体的な**A** なのだ。

3 言葉はいつたい何のために作られたのか。人間を含むサルや類人猿といった③霊長類は、視覚優位の世界認識を持っている。視覚は五感のうちでまず物事を理解するのに用いられ、他者とたやすく共有できるからだ。次に聴覚、嗅覚、味覚、触覚の順に共有度が下がる。変な音が聞こえたり匂いがしたりすると、見て確かめたくなくなるのはその表れだ。それは霊長類の祖先が樹上で暮らし、夜から昼の世界に進出した時に、鳥と同じような立体視と色彩を感じする能力を身につけたことによる。言葉は五感を音によって表現する手段で、まずは視覚に対応するようになっていく。形や色の表現が多彩なのも視覚に基づくからだ。

4 面白いことに信頼を高める五感も逆で、触覚や味覚、嗅覚といった他者と共有しにくい感覚が重要になる。それは他者と直接触れあい、近接して身体を共鳴させたときに味わう感覚で、身体がつながったような気持ちになるからだろうと思う。逆説的に言えば、他者と共有しにくいからこそ、相手の気持ちを感じようという心の動きが生まれるのではないだろうか。

言葉もその感覚を伝える。ざらざら、すべすべ、べっとり、あまつたるとい、つんとくる、などの表現も多彩だ。しかし、これらの言葉は実際に体験してみないと**a** ことが多いいし、「卵の腐ったような臭い」などと実際の現象を例にとることも多くなる。それは、他者と同じように感じているかどうかを確かめることが難しいからである。でも、親密な人間関係を保つためには、視覚や聴覚以上にこれら三つの感覚を共有することが重要になる。共に暮らす上で、身体と心を**B** させることが**c** フカケツ になるからだ。

人類がいつ言葉を話し始めたかは議論の分かれるところだ。装飾品が多く交易の証拠がある現代人(ホモ・サピエンス)だけが言葉を使うという説や、ネアンデルタール人、古くはホモ・エレクトスという原人さえ未発達な言葉を持っていたという説がある。ただ、確かなことは言葉が重さを持たず、持ち運び自由なので、時空を超え物事を伝えられるようになったということだ。さらに、比喻を用いて性質の違うものをいっしょにできるし、現実にはないことを描ける。「オオカミのように残忍な」とか「天地がひっくり返るような大事件」などという表現である。そして、文字の登場によって情報の発し手がいなくても意味を持つ情報を伝えることが可能になった。

ここに問題が生じた。そもそも言葉は話者が目の前にいて交わされるものだったのに、文字によって話者がいなくても伝えられるようになった。情報機器の発達によってその力が**r** 拡大した。本来、言葉は五感を代替して想像させる手段であって、コミュニケーションとしては不完全だ。話者の見えない言葉から気持ちを④過剰に読んではいけない。

気持ちを伝えるためには、何百という優しい言葉を投げかけるより、じっと抱き合ったり、手をつなぎ合ったりする方がいい。コロナ禍で制約されている身体の触れあいを情報技術に明け渡してはいけない。いのちをつなぐためには**C** の限界を理解し、もっと**D** を生かすコミュニケーションを**d** クシ すべきだと思う。

問一 a s d のカタカナを漢字に改めなさい。

問二 — 傍線部①②③④の読み方をひらがなで記しなさい。

問三 空欄へ 1 へ 4 へに入る適切な表現を次の中から選び、番号で答えなさい。
1 では 2 実は 3 しかし 4 いったい

問四 空欄 p r に入る適切な表現を次の中から選び、番号で答えなさい。
1 さらに 2 かえって 3 おそらく

問五 空欄 (ア) に入る適切な言葉を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 痛くもない腹を探られる
- 2 煙幕を張る
- 3 火中の栗を拾う
- 4 腑に落ちない
- 5 木を見て森を見ない

問六 空欄 A に入る適切な語句を次の中から選び、番号で答えなさい

- 1 言動 2 語感 3 万感 4 感触 5 触発

問七 空欄 B に入る適切な語句 (漢字二字から成る) を、本文中から選び記しなさい。

問八 空欄 C ・ D に入る適切な語句 (それぞれ漢字二字から成る) を、本文中から選び記しなさい。

問九 次の中で本文の内容に合っているものはどれか、一つを選び、番号で答えなさい。

- 1 情報通信技術は、言葉でだまされることさえ無ければ、コミュニケーションの手段として最高である。
- 2 「私」はゴリラの強大な力で押さえ付けられ、その鋭い犬歯でかまれて危うく命を失いそうになった。
- 3 変な音が聞こえると確かめたくなるのは、人類には聴覚と嗅覚の共有が見られるからである。
- 4 信頼を高める五感は、他者と共有しにくい感覚が重要になる。
- 5 話者がいなくても情報を伝えられる文字の登場によって、手をつなぎ合う人類の明るい未来が見えるように思われる。

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

私は演奏会の批評をあまり書いたことはないが、それでも新作の発表会の批評などそれに類した文章はいくつか書いている。正直にいつて書くたびに一番困るのは、演奏なり作品なりについて考えをめぐらせているうちに、演奏会場であれだけしつかりと手に(ア)捉えていたはずの音楽が、①指先からどんどんこぼれ落ちてしまうことである。一度はカセット・テープをひそかにもちこんでみたこともあったが、テープに固定された音響からは、あの演奏会場でのAスリリングな一瞬はよみがえってこない。

演奏会批評家としての基本的な能力が欠けている、といわれればそれまでだが、しかし、だいぶ前の『季刊藝術』の音楽時評で、大木正興氏が同じような意見をもらしていた。いうまでもなく大木氏は、二十数年来演奏会批評を書きつづけているベテランであり、客観的な批評の(イ)尺度の持ち主として知られているが、それでも、大木氏の言葉を借りれば、②「音楽的 a ケンボウ 症」という b ジタイ は避けられないという。とすれば、ここに演奏会批評、さらに音楽批評の最も大きな問題がかくされているということになるだろう。

③ 批評という場合、ある客観的な対象があつて、それを一つの立場から観察分析して評価することを意味している。しかし演奏は、時間のなかで c セイキ し消滅していく一回限りのものであり、同一の演奏家が同一の作品を演奏しても同じ音楽が作りだされるとは限らない。つまり文芸批評家や美術批評家たちが、同一の対象を何度もくりかえし観察できるのに対して、音楽批評家は、批評すべき対象を見失ってしまう危険にたえずさらされているのである。

④ これは演奏批評についてであつて、私たちには楽譜もレコードもあり、そうした資料をクシして、(ウ)詳細な作曲家論や作品論を書きあげることでもできるだろう。しかしその場合でも、音楽がもつとも生き生きと現れてくるのは、演奏によつてである。楽譜レコードは、音楽への通路ではあつても、音楽そのものではない。「音楽批評とは何か」といった議論の際、まず論じられるのが演奏会批評であるのは、演奏批評に音楽批評

評の切実で根本的な問題が **d** シュウヤク されているからであろう。

音楽が、演奏のたびごとに、瞬時に成立しては消え去ってしまうものである限り、音楽批評家は、**B** 対象の分析や位置づけを、ひとまずあきらめなければならぬだろう。そもそも音楽は、一つの絶対的な **C** にはなり得ない宿命にあるとさえいえる。へ **◎** **〽** バツハの『平均律』という作品が、ランドフスカとグールドではまったくちがった表情をもつように、あるいは十八世紀にはチェンバロやクラヴィコード、十九世紀にはピアノ、二十世紀には電子楽器で演奏されているように、ある一つの音楽の顔は、演奏家や時代や民族によって、どんどんぬりかえられていくのである。このように多様に変化し瞬時に消え去ってしまう **D** を、客観的に記述し説明することは、音楽学的な研究の課題ではあっても、音楽批評Eプロパーの領域の問題ではないだろう。へ **①** **〽** (エ)私見によれば、音楽批評とは、音楽という対象の分析や認識ではなく、音楽という対象と「私」の出会いであり、その「出会い」の驚きと悦びについて語り、その出会いの意味について考えていくことである。

(船山隆『現代音楽I』より)

問一 **a** **〽** **d** のカタカナを漢字に改めなさい。

問二 **〽** 傍線部 (ア) **〽** (エ) の漢字の読み方をひらがなで記しなさい。

問三 文章中の空欄 **④** **〽** **①** に入れるべき最も適当な語句をそれぞれ次の語群の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 そして
- 2 しかし
- 3 ふつう
- 4 しかるに
- 5 つまり
- 6 ちょうど
- 7 たとえば
- 8 もちろん

問四 **〽** 波線部 **①** 「指先からどんどんこぼれ落ちてしまう」とほぼ同じ内容の表現 (二十五字) を本文中から抜き出しなさい。

問五 **〽** 波線部 **②** 「音楽的ケンボウ症」について、次のように説明するとき、() には、どのような言葉が入るか、本文中の表現十五字を記しなさい。

〓 「音楽という () こと」

問六 空欄 **B** に入れるべき最も適切な漢字三字から成る語句を本文中から選び記しなさい。

問七 空欄 **C** に入れるべき最も適切な語句を次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 状態
- 2 性質
- 3 主体
- 4 客体
- 5 認識

問八 空欄 **D** に入れるべき最も適切な語句を次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 批評
- 2 対象
- 3 評論
- 4 宿命
- 5 時代

問九 **〽** 傍線部 A 「スリリング」・E 「プロパー」の意味としてそれぞれ正しい説明の番号を記しなさい。

- A へ1 ぞくぞくさせる
- 2 地面を震えさせる
- 3 あたりに響き渡らせる
- 4 恐怖を感じさせる
- 5 呼吸を困難にさせる
- E へ1 好みの範囲であること
- 2 物に密着していること
- 3 その方面に専門であること
- 4 関係が密であること
- 5 完全に依存していること

問題三 次の傍線部 **①**・**②** のカタカナの部分は漢字に直し、傍線部 **③** **〽** **⑤** の漢字の部分は読み方をひらがなで記しなさい。

- ・ 良い本を読むと、読後に **①** ヨインが残る。
- ・ 整理しておいたおかげで、大切な原本の **②** サンイツを免れた。
- ・ 彼の傲慢な態度に上司は **③** 苦々しい表情をした。
- ・ 無益な **④** 殺生はするな、というのが昔からの教えである。
- ・ **⑤** 衆生を迷いの苦海から救済する偉大な存在とは、誰を意味するのであろう。